

日本臨床麻酔学会 第45回大会への軌跡
大会長奮闘記⑥「プログラム作り その1」

プログラム委員会が発足し、「どのような講演やシンポジウムを企画すれば、多くの参加者がワクワクするか」に知恵を絞っています。参加者それぞれのキャリアや関心によって、「これは聞きたい!」「面白そう!」と思う企画もそれぞれだからこそ、バラエティ豊かなプログラムを用意することが使命だと考えています。

プログラム作りは、日本臨床麻酔学会の評議員約100名に対する企画案の募集から始まります。昨年11月に企画案提出の要請の連絡をしたところ、20名ほどから、約50件の講演・シンポジウムの企画案が寄せられました。ありがとうございます。心臓・循環器と多職種連携関連が多かったです。大会では、循環・呼吸・神経・小児・産科・ペインクリニック・緩和ケア・救急・ICUという麻酔領域を網羅しつつ、若手医師向けのプログラムも充実させたいと思っていて、現在、寄せられた企画内

容を精査し、テーマごとに分類を進めています。どの企画案も甲乙つけがたいものばかりですが、最終的にはプログラム委員の先生方に評価いただき、さらに不足している分野があれば、それを補うための新たな企画を追加するなどしていきます。

また、今回は看護師、臨床工学技士、薬剤師、栄養士の先生にもプログラム委員として加わっていただき、それぞれの専門的な視点を取り入れたセッションを企画中です。

特別講演については、「STEP UP」というテーマに関連して若手の有力政治家に依頼しましたが、国会会期中のためと辞退されてしまいました（残念!）。しかし、ほかにも名古屋ならではの依頼を進めています。

最終的には、50～60本くらいの講演・シンポジウムを組む予定です。

この大会が、新たな知識を得て視野を広げる「STEP UP」の場になることを目指して……とはいえ、タイムテーブルはまだまだスッカスカですが（汗）。

（上村 友二，祖父江 和哉）